



## イヌマキ等の害虫

# 『キオビエダシャク』にご用心！



イヌマキ等（イヌマキ、ヒトツバ、ラカンマキ、ナギ）の害虫である『キオビエダシャク』。

幼虫が葉を食べつくし、樹木が枯死する場合があります。自宅の庭にイヌマキ等がある方は薬剤散布など対策を行い、被害が拡大しないように注意しましょう。

### ◆キオビエダシャクはどんな虫？

成虫は、開長約6cmで、全体的に紺色をしており、羽に黄色の帯があり、通常の蛾と違い、昼間に飛びまわります。

幼虫は、体調約5cmで頭、尻及び側面がオレンジ色をしており、全体的に灰色と黒色のまだら模様をしています。

### ◆発生したら

#### ①幼虫の発生が少ない場合

木を揺すって落ちた幼虫を駆除します。また、木の根元の土中に茶褐色で紡錘方をしたサナギがいますので、掘り出して駆除します。成虫は、虫取り網などで捕まえ駆除してください。

#### ②幼虫が大量発生している場合

薬剤散布が効果的です。薬剤がムラ無く葉の裏にもかかるように散布します。その後は定期的に観察して発生を確認したら散布を実施します。

※薬剤散布は幼虫には効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。



### ◆自分で薬剤散布する時に気をつけること

- (1) 行う前に、あらかじめ近所の方にも連絡し、散布中は、周辺の農作物や通行人等に薬剤が飛散しないように注意しましょう。
- (2) 風のない日を選び、日中の暑い時間を避け、朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。
- (3) 薬剤がムラなく葉の裏にもかかるようにしましょう。（幼虫は葉の裏にもいます。）
- (4) ラベルの説明書を必ず読んで、薬剤の希釈倍数など記載内容に従って正しく使用しましょう。（決められた希釈倍数より濃い濃度での散布は危険ですので、やめましょう。）
- (5) 散布を行う際は、薬剤が体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、長靴、雨合羽などを着用しましょう。
- (6) 散布後はただちにうがい、洗眼を行い、また手足等を石鹸で洗い、衣類は下着まで着替えましょう。



薬剤名（有効成分）	希釈倍数	使用液量 （10アール当たり）	同じ有効成分を含む 農薬の総使用回数
トレボン乳剤 （エトフェンプロックス）	4000倍	100～700リットル/10a	6回以内
ロックオン （フルベンジアミド）	1000倍	200～700リットル/10a	2回以内
アディオン乳剤 （ペルメトリン）	4000～8000倍	200～700リットル/10a	6回以内

※薬剤については、ホームセンターや園芸用品店等で購入できます。

### ◆自分で薬剤散布が出来ない場合

自分で薬剤散布ができない場合は、大隅森林組合【☎0994(40)1611】や造園業者等にご相談ください。金額については、各事業所にお問い合わせください。

お問い合わせ先 肝付町役場 林務水産商工課 ☎0994(67)4513